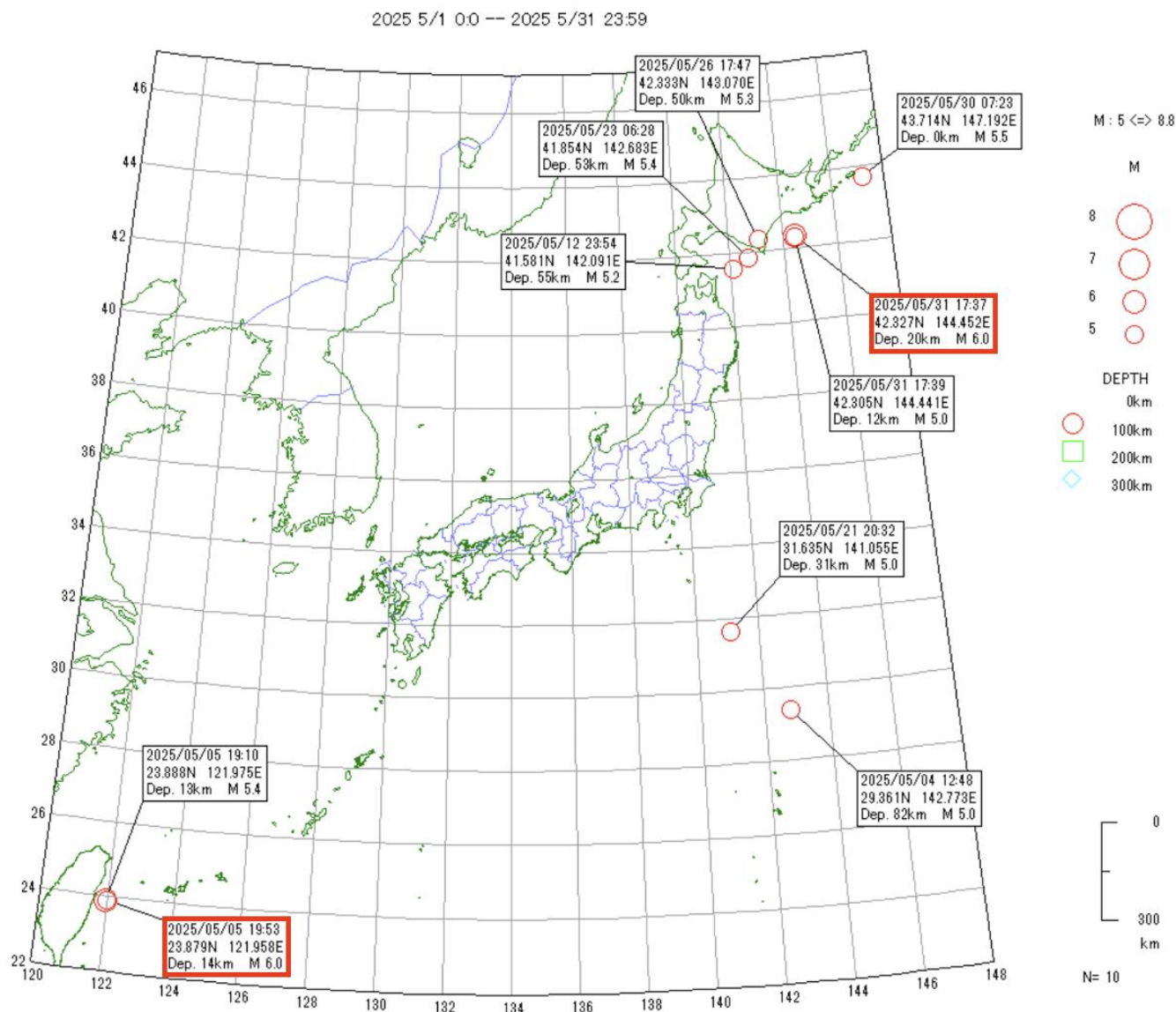


2025年5月の地震活動概観

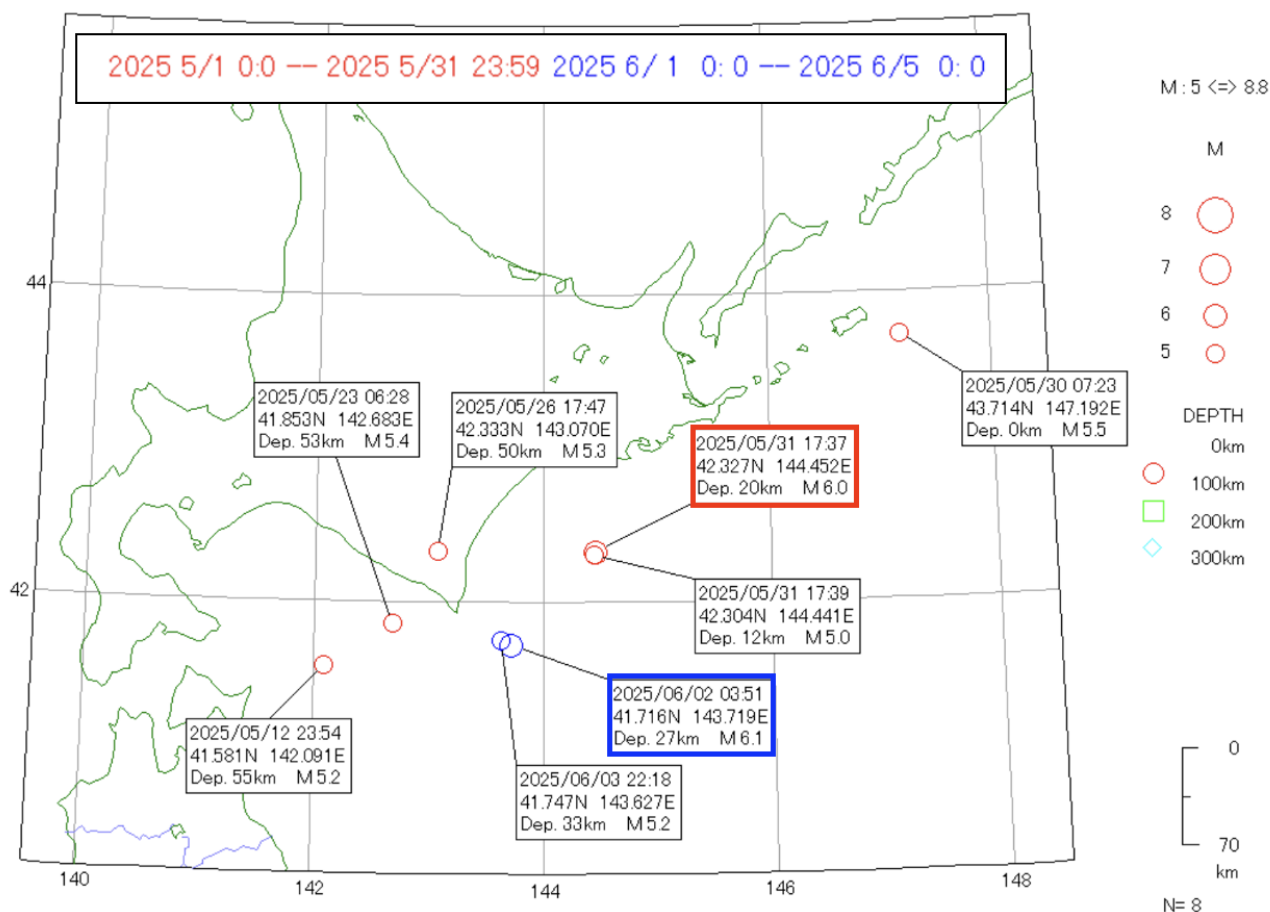
5月は日本列島およびその周辺海域でマグニチュード(M)5以上の地震は10個発生しました。特に目立ったのは、北海道周辺でかなりまとまった地震が発生した事です。

期間中に発生した最大の地震は5月31日に北海道・釧路沖で発生した M6.0 と、台湾でも M6.0 が発生していました。



北海道周辺では南海トラフと同様に巨大地震が繰り返し発生していた事が津波堆積物の調査等により判明しています。そして日本海溝や北海道沖の千島海溝沿いの領域では、M7クラスの地震が発生した後に、更に大きな M8クラス以上の大規模な地震が発生した事例などが確認されている事から、2023 年 12 月 11 日から「北海道・三陸沖後発地震注意情報」運用(発令)開始という事になりました。実際、2011 年の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)では、前震・本震のような連動が確認されています。そのため今後も「連動型地震」が発生する可能性があると考えられるため、気象庁が新たな情報発信体制を整備したものです。

次のページには北海道周辺の拡大図をお示しします。こちらでは6月5日までの地震を図示してあります。



上の図から、襟裳岬沖・釧路沖といった千島海溝沿いで6月も活発な地震活動が続いている事がわかります。これらはいずれも太平洋プレートが北アメリカプレートの下に沈みこむ事で発生しており、将来想定されている千島海溝沿いの巨大地震と同じメカニズムの地震です。

また、DuMA では釧路沖で地震活動静穏化が確認されている事をこれまでも伝えて参りました。

[DuMA newsletter2025 年 5 月 5 日号](#)

[DuMA newsletter2024 年 12 月 2 日号](#) など

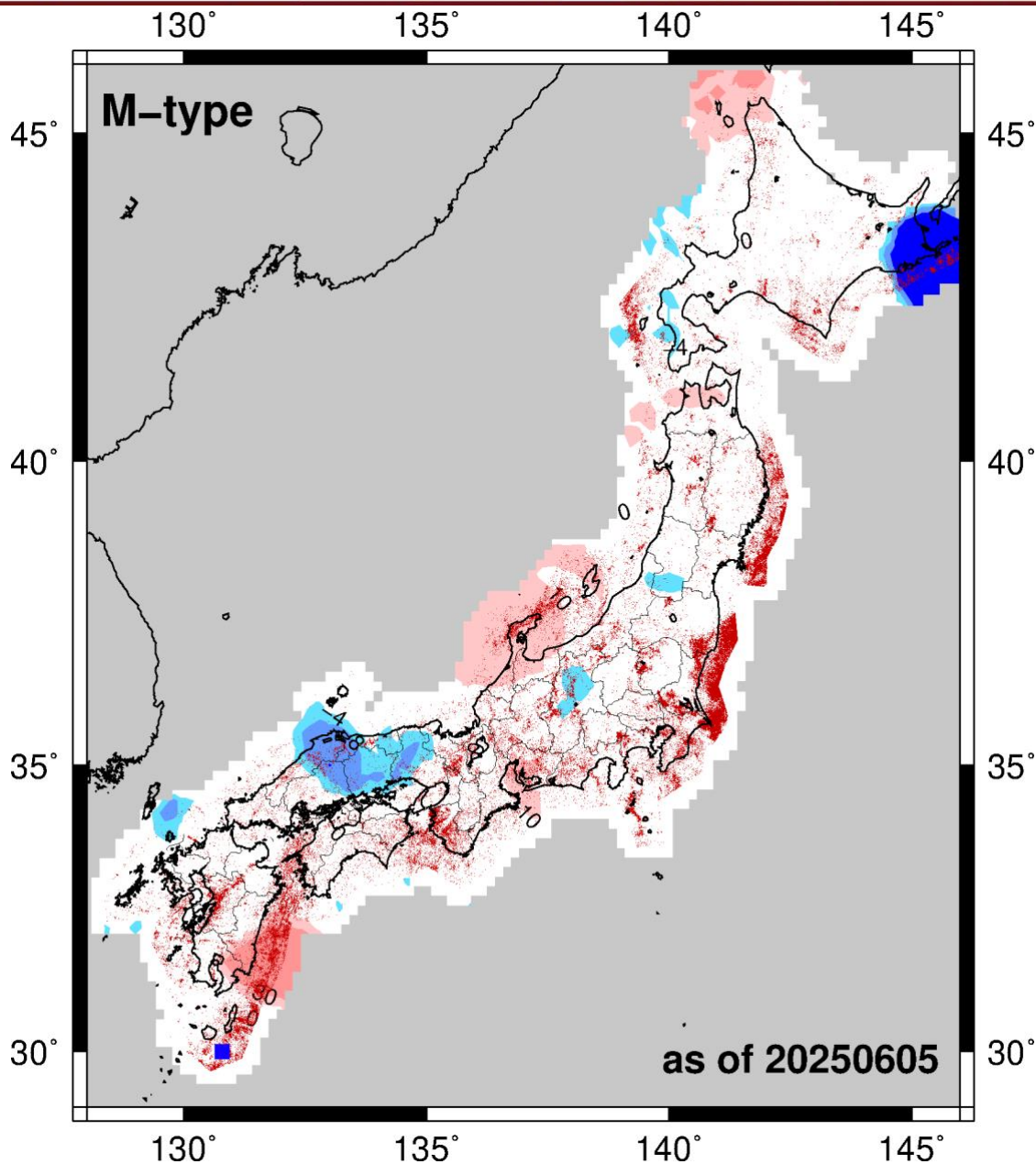
この地震活動静穏化については、本日の日本全国陸域の地下天気図でも扱います。

日本列島陸域の地下天気図®

5月5日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は6月5日時点の M タイプの地下天気図をお示します。

前回、5月5日のニュースレターでお示した地下天気図とは基本的に大きな変化はありません。中国地方を中心として一部近畿地方に伸びる地震活動静穏化の異常も継続しています。能登半島周辺の地震活動は少し収まってきたかもしれません。

新たな変化としては、佐賀県・福岡県北方海域で地震活動静穏化が出現しましたが、この地域はもともと地震活動が低調な地域のため、評価が難しいところです。



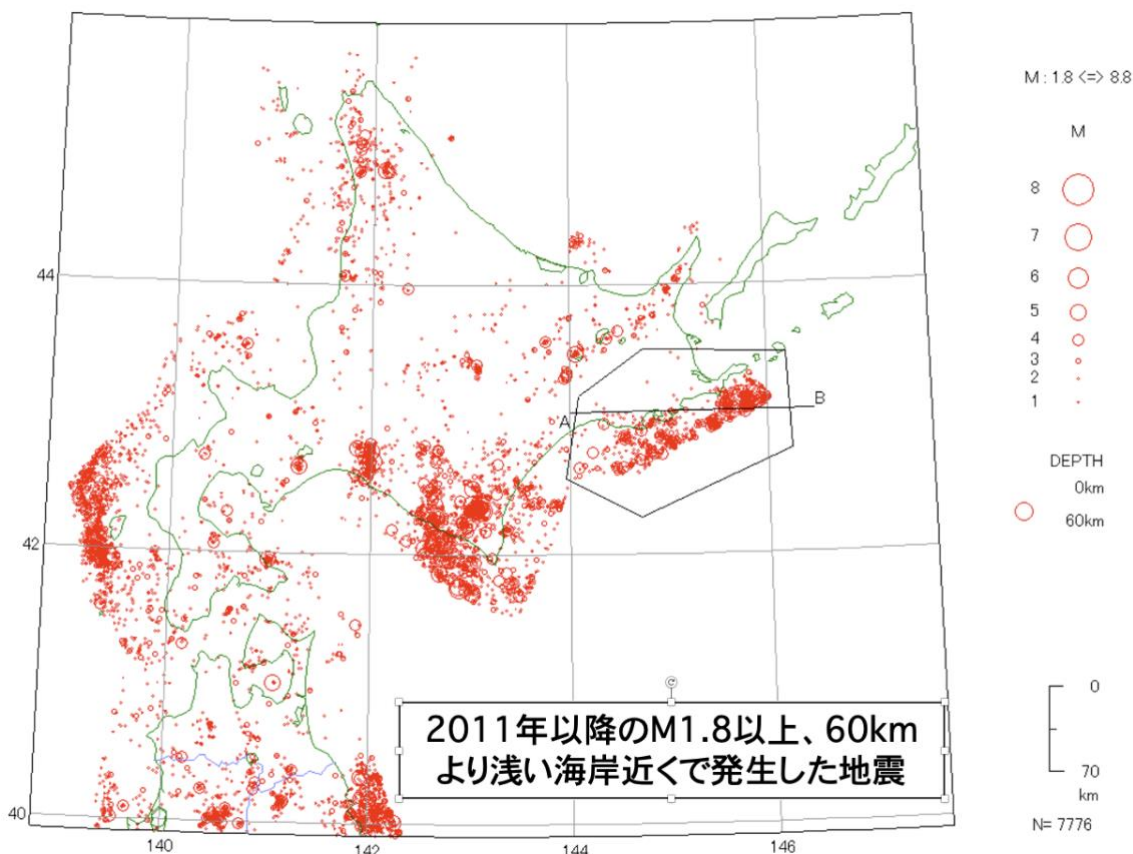
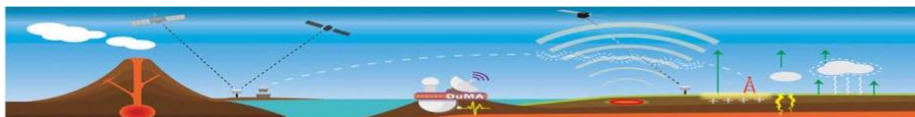
次のページは北海道の陸域近くで発生した地震(解析に用いた地震)です。2枚目の図は道東地域の多角形で囲った地域で発生した地震の積算数です。

それまではほぼ一様に発生していた地震が、2024年半ばから少なくなっているのがわかります(活動を外挿した直線からずれてきた)。これが地震活動静穏化です。

この静穏化の解釈ですが、5月31日および6月2日に発生したマグニチュード6クラスの地震により解消した可能性も存在します(対応地震発生との考え)。

いずれにせよこの静穏化は2月27日のニュースレターのダッシュボードでも述べていますが、いわゆる大地震には至らない異常と考えています。以下ダッシュボードのコメントをご確認ください幸いです。

[DuMA newsletter2月17日号](#)



地下天気図解析に使用した地震の震央

